

**「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会
第1回公共交通優先のライフスタイル検討部会 摘録**

1 日 時 平成 20 年 8 月 28 日（木）13 時～15 時

2 場 所 京都市消防局本部庁舎 7 階「作戦室」

3 出席者 別紙出席者名簿

4 議事次第及び内容

（１）開会

水田交通政策監挨拶

- 京都市民の皆様は、1200 年を超える悠久の歴史を通じて山紫水明の自然を守り続けた市民である。また、京都議定書発行の地であるとともに、国際観光文化都市でもある。地球規模で深刻な問題となっている環境問題に対して果たす役割は、大変大きいものである。
- 門川市長は、「歩いて楽しいまち京都」を実現するためには、健康、環境、観光振興、地域コミュニティ、教育、子育て、地域活性化など様々な観点から交通政策を進めなければならないということで、「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定することになった。
- これから皆様方にはクルマ社会からの脱却について御議論頂くことになるが、皆様の議論を総合交通戦略策定に結びつけるように、お役所仕事はしないという決意を持って望みたい。

内藤部会長挨拶

- 役所が縦割り行政を廃して推進するというのを、今まで何度も聞いたことがあるが、なかなか実現は難しい。今回、京都市は本気で取り組むということなので、大役を仰せつかったと感じている。
- 審議会の北村会長ともご相談し、藤井委員に副部会長として就任していただきたく考えておりますので、よろしくお願いしたい。
- あまり時間をかけて、じっくりとやっついては実現できないことも、勢いがあれば乗り越えられるのではないかな。気楽な雰囲気の中で、忌憚のない意見をたくさん頂いて、活発な議論を進めていきたいと考えているので、よろしくお願いします。

藤井副部会長挨拶

- 現在は東京工業大学に籍を置いているが、京都大学で学びまた働いていたこともあり、京都のまちを良くするお手伝いを仰せつかったと思っている。

（２）出席者自己紹介

(3) 議事

- ア 「歩くまち・京都」が目指す理念の説明
- イ 「歩くまち・京都」のためのコミュニケーション施策について
- ウ 歩行者優先憲章及び市民意識調査について

(4) 意見交換

(委員)

- これまで30年間京都で暮らし、学生の際は自転車に乗って、太秦の自宅から百万遍の大学まで通学していた。
- 交通手段の優先順位について、まずは徒歩であるが、その次は公共交通なのか自転車なのか。どのように組み合わせていくべきか議論したい。

(委員)

- ヨーロッパでは歩ける範囲内に教会や名所が立地している。タクシーを使わずに歩く気になるためには、案内が充実していて分かりやすいということと、カフェやまちなみ等の歩きたいと思う雰囲気づくりが重要であると思う。

(委員)

- 藤井先生のお話を聞いて、効果を数字で説明されると説得力が違うと感じた。
- 先日、行った北京では自転車専用レーンが整備されていた。
- まちなかでベビー用品を買う所がなくなっている。まちなかで便利な買い物ができる商店が減ってきているのではないか。
- 京都には、「クルマでは来にくい」「クルマで来たらあかんで」ということを広く知らしめる方法もあるのではないか。

(委員)

- クルマ以外で来たら、こんなに素敵ということも合わせて知らせていくと良い。

(委員)

- 他府県ナンバーのクルマが多いと感じるので、クルマでは来にくいことをもっとアピールすべき。
- 山科からまちなかに来るために、地下鉄を利用するが、そこに行くための京阪バスは1時間に2便しかなく、不便さを感じる。
- 自転車も歩道の段差があると走りにくいので、そういう整備も進めてもらいたい。

(委員)

- 自転車は環境に優しくて良いけれども、商店街には自転車を停めておく場所がない。人通りが多い場所には停めないが、路地には放置自転車が溢れている。駐車場条例に基づき附置義務駐車場の整備が定められているが、逆に駐車場整備の上限を設けることを以前から提言している。
- タクシーは公共交通に入るのかどうか、という問題もある。昨年度のトランジットモール化の実証実験ではタクシー通行可とされていたが、トランジットモール化にはタクシーは通

行すべきではないと思う。

(委員)

- 公共交通と自転車は補完的な関係にあって、組み合わせて利用することができるという認識に立つべきではないか。自転車については、今後のパーソナルモビリティが、どのようにあるべきかという視点も必要であると思う。
- クルマ抑制を訴える場合、環境と健康と、どちらに訴えた方が効果的なのか。

(委員)

- 環境と健康とどちらが効果的なのかは、人によって違うが、最近では環境に関する関心が非常に高まっている。もし情報提供する時間とスペースが多くあるならば、経済的な説明をするのが一番効果的。クルマを20代に乗るのをやめると生涯賃金で3000万円くらい違ってくる。実は、クルマに乗らないで都心に住むというのは、豊かなライフスタイルの実現方策の1つである。

(委員)

- 低炭素社会にはコンパクトシティの実現が有効であるが、一ター朝には難しい。大阪では、毎月20日をノーマイカーデーとして、その日に集中工事を実施するなど、クルマ利用者にとって不便な状況をつくり、利用を控えてもらう工夫をしている。

(委員)

- 室町時代の生活を表現している狂言には乗り物というものは、ほとんど出てこない、出てきても馬くらい。
- むかし、おばあちゃんが百貨店に買い物に行く時は、わざわざ着物に着替えていた。時間の流れがゆっくりしていた。
- 便利なことを追い求めることを辞めても、京都なら許されるのではないか。京都でこそ、逆ギレして「クルマで来るな」「クルマ来たらあかんで」と言っても良いのではないか。

(委員)

- 市民ぐるみで取り組むことだが、まちなかの大型店舗との関わりについて検討すべきではないか。大型店舗がどのように考えているか聞いたほうがよいのではないか。

(事務局)

- 今後できれば、関連業界・団体の方の意見をヒアリングする機会を設けたいと思っている。

(委員)

- 百貨店も駐車場を整備するのは負担であるから、内心は駐車場をやめて売場にできれば良いと思っているのではないか。

(委員)

- 空車のタクシーがまちなかを走行するのを、CO2削減の観点から禁止できないかと以前から思っていたが、他の委員からも問題提議があったので思いを強くした。

- 地域にとって百貨店の集客力は大きいですが、百貨店はクルマの顧客によって売り上げを増やしたいと考えておられるように思う。駐車場の半分を駐輪場に転用すべきであると思う。

(委員)

- バスでまちなかに出てくるには必ず乗り継ぎをしなければならない地域に住んでおり、また10ヶ月の赤ちゃんと2歳の子供がいるので、実は移動はいつもクルマである。どういう理由で、みなさんがクルマに乗っているのかを、しっかり調べて施策を考えるべき。

(委員)

- 藤井先生の話が、生活習慣病を持っている患者さんの行動を変える時の話にも役に立つと思って伺っていた。まず問題を認識してもらうこと、行動を変えるメリット／デメリットを明示すること、メリットがデメリットを上回ること、行動を変える方法があること、それぞれをしっかりと伝える必要がある。また3ヶ月くらいで行動が元に戻ってしまうことが多いので、継続して情報を提供することも重要である。

(委員)

- 顧客用の駐車場を用意していない百貨店もあるので、駐車場を自転車用に転用するのは賛成である。

(委員)

- 本日の議論で出てきた「京都はクルマで来たらあかんで」というフレーズは、歩行者優先憲章にも使えるのではないかと。京都ではP&Rをしようにも、駅前に駐車場用地がないので、バイク（自転車）&ライドが良いのではないかと。例えば御池駐車場に自転車を止められるようにしたり、ベロタクシーの地域拡大といったことも考えられないか。

(委員)

- 自転車は、最近キーワードになってきている。自転車の放置・盗難が増えて来ているのは、マナー・規範が低下している社会風潮を反映しているのではないかと。

(委員)

- クルマで来た顧客は駐車場代を商業施設が負担するのに、公共交通で行くと荷物の発送費を負担しなければならない。まちの戦略として、公共交通利用者を優遇することを考えていく必要があるのではないかと。

(委員)

- KICS では公共交通の来訪者には割引くサービスを実施しているが、このサービスに加入している百貨店は藤井大丸だけである。

(委員)

- 主婦感覚としては、これ以上新しいクレジットカードを作るのには抵抗があるので、一般的なカードのポイントが附加されるようになってほしい。

(委員)

- 色々な意見があったが、「クルマには全然問題がない」と言う人はいないし、「歩くことが一番重要」ということも異論のないところであるように感じた。理想を実現することが大事であるが、優先順位を明確にして、できることを確実に実行していくことで、京都のまちを大きく変えていくことができると思う。

(委員)

- 「歩いて楽しい」だけでなく、災害のことを考えると船という手段も考慮すべきかもしれない。

(5) その他（事務局から）

- 次回日程は、審議会の開催状況ならびに市民意識調査の実施状況を踏まえて、改めて連絡させていただく。

(6) 閉会（水田交通政策監）

- 「京都だから逆ギレできる」という意見には勇気づけられた思いである。
- 当検討部会の市民委員には23名の応募があった。市民の皆様のムードは確実に高まっていると受け止めている。今後も市民の皆様の意見を反映させるとともに、他の部会で検討している公共交通の利便性を高める方策とも連携しながら進めていきたい。
- 内藤部会長の「時間をかけてじっくりとやっていると実現できない。」とおっしゃったことを受け止めて、スピード感を持って実現していきたい。本日は、皆様本当にありがとうございました

(別紙)

「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会
第1回公共交通優先のライフスタイル検討部会 出席者名簿(敬称略)

	所 属 等	出 席 者
部会長	京 都 大 学	名誉教授 内藤 正明
副部会長	東 京 工 業 大 学 大 学 院	理工学研究科教授 藤井 聡
	華 道 家 元 池 坊	次期家元 池坊 由紀
	大 石 内 科 ク リ ニ ッ ク	院長 大石 まり子
	京都市教育委員・スポーツコメンテーター	奥野 史子
	京 都 市 地 域 女 性 連 合 会	副会長 佐伯 久子
	狂 言 師	茂山 千三郎
	立 命 館 大 学	情報理工学部助教 谷口 忠大
	株 式 会 社 京 都 放 送	報道局アナウンス部長 村上 祐子
	市 民 委 員	上田 文博 村下 舞子
	京 都 商 店 連 盟	会長 早瀬 善男
	京 都 大 学 大 学 院	工学研究科助教 菊池 輝
	国 土 交 通 省	近畿地方整備局建政部都市整備課課長補佐 河野 純一 近畿運輸局交通環境部環境課長 生嶋 繁樹 京都運輸支局首席運輸企画専門官 羽田 祐治
	京 都 府	建設交通部交通対策課参事 籠見 徳彦
	京 都 府 警 察 本 部	警務部警務課企画調整室長補佐 姫野 敦秀 警務部警務課 出畠 克臣 交通部交通規制課調査官 増永 淳三 交通部交通規制課課長補佐 前田 昭人 交通部交通規制課係長 山口 正則

京 都 市 (事務局 課長級以下略)	交通政策監	水田 雅博	都市計画局歩くまち京都推進室長 佐伯 康介
	総合企画局地球温暖化対策室長	黒田 芳秀	環境局環境企画部長 岡田 憲和
	文化市民局市民生活部長	鶴谷 隆	保健福祉局保健衛生推進室部長 高木 博司